

OpenClaw vs Manus

AI エージェント時代の二大潮流を徹底比較

2026年3月31日

Claude Opus 4.6

OpenClaw と **Manus** は、**2025～2026年のAI エージェント領域**を代表する二大プロダクトであるが、**思想・アーキテクチャ・ビジネスモデルのすべてにおいて対照的な存在**である。OpenClaw はローカル実行・完全オープンソースの「自分だけのAI」であり¹⁾、Manus はクラウド完結・フルマネージドの「誰でも使えるAI ワーカー」を目指す²⁾。両者はAI エージェントの設計思想——ユーザー主権 vs. 利便性、透明性 vs. 手軽さ——を象徴しており、どちらを選ぶかは技術力・プライバシー要件・ユースケースに大きく依存する。

1. 基本情報と開発の経緯

1.1 OpenClaw

OpenClaw は、オーストリア人開発者 Peter Steinberger (PSPDFKit 創業者) が 2025 年後半に個人プロジェクトとして開始したオープンソースの AI エージェントである¹⁾。元々は「Clawdbot」という名称で 2025 年 11 月に公開されたが、Anthropic からの商標クレームを受けて「Moltbot」に改名 (2026 年 1 月 27 日)、さらに「OpenClaw」に再改名 (1 月 30 日) した¹⁾。ロゴはロブスターで、タグラインは「Your own personal AI assistant. Any OS. Any Platform. The lobster way.」である³⁾。2026 年 2 月 14 日に Steinberger は OpenAI に入社し、プロジェクトは独立したオープンソース財団に移管された (OpenAI がスポンサー¹⁶⁾³²⁾。NVIDIA の Jensen Huang CEO は OpenClaw を「生成 AI の第三の変曲点」と評している²⁵⁾³⁵⁾。

1.2 Manus

Manus は、中国の AI スタートアップ Butterfly Effect (Monica.im の運営元、創業者: Xiao Hong、共同創業者: Yichao "Peak" Ji) が開発したクラウドベースの汎用 AI エージェントである²⁾。名称は MIT のモットー「Mens et Manus (精神と手)」に由来する²⁾。2025 年 3 月 5 日に招待制ベータとしてローンチし、わずか 8 ヶ月で年間経常収益 (ARR) 1 億ドル超を達成²⁾。2025 年 4 月に Benchmark VC から 7,500 万ドルを調達 (評価額 5 億ドル)²⁾。同年 12 月 29 日、Meta が約 20 億ドルで買収し、現在は Meta 子会社として運営されている⁴⁾⁵⁾。

1.3 基本情報サマリー

項目	OpenClaw	Manus
----	----------	-------

開発元	Peter Steinberger → OpenClaw 財団 (OpenAI スポンサー)	Butterfly Effect → Meta (2025年12月買収)
初回リリース	2025年11月 (Clawdbot 名義)	2025年3月5日
本社所在地	オープンソース (分散型)	シンガポール (元は北京)
ライセンス	MIT License (完全オープンソース)	プロプライエタリ (クローズドソース)
GitHub スター	約 342,000 (歴代最多クラス)	非公開
基本思想	ローカルファースト・ユーザー主権	クラウドネイティブ・フルマネージド

2. アーキテクチャと技術的設計

OpenClaw はローカル実行のゲートウェイ型アーキテクチャを採用している。コアは TypeScript で書かれた Node.js 24 プロセス (Gateway) であり、メッセージングプラットフォームへの接続、セッション管理、エージェントループ (推論+ツール実行)、メモリ永続化をすべて単一プロセスで処理する³¹¹⁾。データはすべてローカルに保存され、会話やメモリ、スキル定義はプレーンな Markdown と YAML ファイル (~/.openclaw/配下) として管理される¹¹⁾。25 以上のメッセージングプラットフォーム (WhatsApp、Telegram、Slack、Discord、Signal、iMessage、LINE 等) をチャンネルとしてサポートする³¹²⁾。

対照的に、Manus はクラウド上のマルチエージェントオーケストレーションシステムである。中央の「Planner エージェント」がユーザーのタスクをサブタスクに分解し、Browser Operator、Knowledge Agent、Code Execution Agent などの専門サブエージェントに分配する²⁸⁾。各タスクは専用のクラウド VM (隔離された Ubuntu サンドボックス) で実行される²⁷⁾²⁸⁾。2025年7月に共同創業者の Ji が公開した技術ブログによると、エージェントフレームワークは4回作り直されており、本番環境で最も重要なメトリクスは KV キャッシュヒット率であると述べている²⁷⁾。

LLM 対応の柔軟性は OpenClaw が圧倒的に優れる。OpenClaw は Claude、GPT 系列、Gemini、DeepSeek、さらに Ollama や LM Studio 経由のローカルモデルなど、任意の OpenAI 互換エンドポイントを利用可能³¹¹⁾。一方、Manus は内部で Claude 3.5/3.7 Sonnet と Alibaba の Qwen (ファインチューン版) を使用しているが、ユーザーがモデルを自由に選択する仕組みはない²⁸⁾。

3. 機能比較

OpenClaw の強みは、常時稼働のパーソナルアシスタントとしての機能にある。

HEARTBEAT.md ファイルで cron 的なスケジュールタスクを定義でき、ユーザーが指示しなくてもプロアクティブに動く¹¹⁾²⁶⁾。SOUL.md でエージェントの人格や行動規範を詳細にカスタマイズ可能であり、ClawHub には 13,000 以上のスキルが公開されている³¹⁶⁾。実際の

利用報告では、受信トレイの数千件のメール整理、車の価格交渉（メール自動交渉で 4,200 ドル節約）、保険金請求書類の作成などが挙げられている⁶⁾²⁹⁾。

Manus の強みは、ワンショットの複雑なリサーチ・制作タスクを高品質で完了させる能力にある。2025 年 8 月に追加された Wide Research 機能は、100 以上のソースを並列に調査するマルチエージェントリサーチで、市場調査・競合分析に特に威力を発揮する²⁾³⁰⁾。2026 年 3 月にはデスクトップアプリ「My Computer」がリリースされ、ローカルファイル操作もクラウド AI で実行可能になった²⁰⁾³⁴⁾。

機能カテゴリ	OpenClaw	Manus
常時稼働・スケジュール実行	✓ HEARTBEAT.md で定義	✗ セッション起動型のみ
メッセージング統合	✓ 25+プラットフォーム	△ Telegram 中心
人格カスタマイズ	✓ SOUL.md で詳細定義	△ 基本的なパーソナライズ
ローカルモデル利用	✓ Ollama/LM Studio	✗ 不可
Web/アプリ開発	△ 可能だが手動設定	✓ フルスタック自動生成
並列リサーチ	△ 手動構成で可能	✓ Wide Research 機能
視覚的進捗表示	✗ CUI ベース	✓ リアルタイム作業可視化
スキルマーケット	✓ ClawHub 13,000+	△ Agent Skills (限定的)
同時実行タスク数	無制限 (HW 依存)	最大 20 (プランによる)

4. メリット・デメリット

4.1 OpenClaw

最大のメリットは「完全な主権」にある。データは一切外部に送信されず (LLM API コール以外)、コードは公開・監査可能であり、ベンダーロックインが存在しない¹⁾¹²⁾。MIT License なので商用利用も自由であり、ローカルモデルを使えば API 費用すらゼロにできる。5 ドル/月の VPS や Raspberry Pi でも稼働する¹¹⁾²⁹⁾。342,000 スターのコミュニティと 1,000 人以上のコントリビューターが毎週コードを出荷しており、エコシステムの成長速度は前例がない⁶⁾⁷⁾。

最大のデメリットは「セットアップと運用の複雑さ」である。Node.js 環境の構築、API キーの設定、各メッセージングプラットフォームの接続設定が必要で、非技術者にはハードルが高い¹²⁾³¹⁾。また、ローカル実行ゆえのセキュリティリスク (後述) が深刻な懸念材料となっている⁷⁾⁸⁾。

4.2 Manus

最大のメリットは「即座に使える完成度」にある。ブラウザにログインするだけで利用開始でき、技術的知識は不要¹³⁾¹⁴⁾。タスクの進捗をリアルタイムで視覚的に確認でき、成果物は

Word、Excel、PDFなどのファイルとして直接ダウンロード可能³⁰⁾。Metaの買収によりインフラ基盤と長期的な開発リソースが確保されている⁴⁾⁵⁾。

最大のデメリットは「不透明なコスト構造」と「データ主権の喪失」である。クレジット制の料金体系は消費量の予測が困難で、「39ドルが10分で消えた」というユーザー報告もある¹⁸⁾¹⁹⁾。すべてのデータはMetaのクラウドサーバーで処理されるため、機密情報の取り扱いには大きな懸念がある¹⁵⁾²²⁾²³⁾。

5. セキュリティとプライバシーのリスク

これは両プロダクトにとって最も深刻な論点であり、リスクの性質が根本的に異なる。

5.1 OpenClaw のリスク：ローカル環境の暴走

OpenClawはユーザーのマシン上でターミナル、ファイル、メール、ブラウザに無制限のアクセス権を持つ。CVE-2026-25253 (CVSS 8.8)として報告されたWebSocketのオリジン検証不備により、悪意あるWebページを閲覧しただけでセッション乗っ取り・リモートコード実行が可能であった(修正済み)⁷⁾¹⁰⁾。セキュリティ研究者により、ClawHub公開スキルの約20%に悪意あるコード(クレデンシャル窃取、バックドア、データ流出)が含まれていたことが判明⁹⁾。CiscoのAI研究チームも、テストスキルがユーザーに気づかれずにデータ流出・プロンプトインジェクションを実行できることを実証した⁹⁾。CrowdStrikeは「AIバックドアエージェント」と評し、Meta社内では使用禁止、中国政府も政府機関での使用を制限した⁸⁾²⁴⁾。

緩和策として、NVIDIAのNemoClaw(サンドボックス実行環境)³³⁾、3段階のツール承認システム(ask/record/ignore)、v2026.2.12以降の40以上の脆弱性修正などが導入されている⁷⁾³¹⁾。

5.2 Manus のリスク：クラウドへの信頼問題

Manusのリスクは技術的脆弱性よりも構造的・地政学的な信頼の問題に集中する。北京で開発されシンガポールに法人登記という構造であり、中国の国家情報法により、政府がデータ提供を強制できる可能性がある²²⁾²³⁾。テネシー州・アラバマ州は政府端末でのManus使用を禁止した²⁾。Meta買収後の懸念として、Meta自体のデータプラクティスへの不信感から、一部顧客が離脱したとも報道されている¹⁵⁾。透明性の面では、データセンターの所在地が非公開であり、第三者セキュリティ監査の結果も非公開である²²⁾²³⁾。著名な日本のセキュリティアナリスト(平岡憲人氏)は12のリスク基準に基づきManusを「1:極めて危険」と評価している²²⁾。

5.3 リスクの本質的な違い

OpenClawのリスクは「自分のマシンでAIが暴走する」ローカルリスクであり、Manusのリスクは「他者のクラウドにデータを預ける」信頼リスクである。前者は技術力で緩和可能

だが、後者は構造的に解消が困難という非対称性がある¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。

6. コミュニティとエコシステム

OpenClaw のコミュニティ成長は前例がない。2026 年 1 月末のバイラル化からわずか 2 ヶ月で GitHub スター 342,000 (React や Linux を超え歴代最多クラス)、フォーク 67,400、コントリビューター 1,000 人以上、npm ダウンロード 220 万/週に達した⁶⁾⁷⁾。Discord コミュニティは 116,000 人以上である¹⁾。エコシステムは NVIDIA の NemoClaw、Near AI の IronClaw (Rust 実装)、Amazon AWS のワンクリックデプロイ対応など、大手企業が相次いで参入している³³⁾²⁵⁾。中国では深圳市が OpenClaw 関連スタートアップに最大 1,000 万元 (約 2 億円) の補助金を提供している²⁴⁾。

Manus のエコシステムは企業主導型で、コミュニティ規模の透明性は低い。「世界中で数百万のユーザーと企業」と Meta は主張し、ARR は 1.25 億ドル超²⁾²¹⁾。Manus 自体のオープンソース代替としては、MetaGPT チームが構築した OpenManus (36,200 スター) が存在するが、これは Manus の公式プロジェクトではない²⁾。

7. 料金体系

OpenClaw はソフトウェア自体が完全無料 (MIT License) である。コストが発生するのは LLM API の利用料のみで、ユーザーが選択するプロバイダーと使用量に依存する。ローカルモデル (Ollama 等) を使えば完全に 0 円で運用可能³⁾¹²⁾。

Manus はクレジット制のサブスクリプションモデルを採用している¹⁷⁾¹⁸⁾。

プラン	月額	月間クレジット	同時タスク数
Free	\$0	1,000 (開始時)	1
Standard	\$20	約 19,000	2
Plus	\$40	より多い割当	増加
Extended (Pro)	\$200	約 39,000	5 + Max モード
Team	\$40/人/月	19,500 (共有)	チーム機能

重要な注意点として、クレジットは月をまたいで繰り越せず、タスクの消費量は事前に予測できない。簡単な API クエリは約 4 クレジットだが、複雑なエージェントタスクは 1,000 クレジット以上を消費することもある¹⁸⁾¹⁹⁾。

8. 2025～2026 年の最新動向と今後の展望

Manus は 2025 年 12 月の Meta 買収により、Facebook・Instagram・WhatsApp エコシステムとの統合が視野に入った⁴⁾⁵⁾。2026 年 3 月にはデスクトップアプリ「My Computer」をリ

リースし、**OpenClaw** の得意領域であるローカル操作に進出した²⁰⁾³⁴⁾。ただし、中国当局が **Meta** 買収に対する技術輸出規制の観点から審査を進めており、地政学的リスクが引き続き重要な論点となっている²¹⁾。**Meta** 買収後の顧客離脱も報じられている¹⁵⁾。

OpenClaw は 2026 年 1 月末のバイラル化以降、歴史的な速度で **GitHub** スターを積み上げ、3 月には **React** を超えて歴代最多クラスに到達した⁶⁾。2026 年 3 月には **NVIDIA** が **NemoClaw** (エンタープライズ向けセキュリティスタック) を発表し、企業採用への最大の障壁であったセキュリティ問題に本格的な対応が始まった²⁵⁾³³⁾。今後の注目ポイントは、**OpenClaw** の財団化後のガバナンス確立とセキュリティ成熟、**Manus** の **Meta** エコシステム統合の進展、そして両者の「ローカル vs. クラウド」という設計思想の収斂がどこまで進むかである²¹⁾²⁹⁾。

9. 結論：選択は「何を信頼するか」で決まる

OpenClaw と **Manus** の比較は、単なる機能差ではなく AI エージェント時代における根本的な設計哲学の対立を映し出している。**OpenClaw** は「自分のデータは自分で守り、自分の AI は自分で構築する」というハッカー精神の延長線上にあり、技術力と引き換えに完全な自由と透明性を得られる¹⁾¹²⁾。**Manus** は「複雑なことはクラウドに任せ、結果だけ受け取る」という **SaaS** 的な利便性を提供するが、データの行き先とコストの不透明さが代償となる²⁾¹⁴⁾。

技術者・プライバシー重視のユーザーには **OpenClaw**、非技術者・即座に成果物が必要なナレッジワーカーには **Manus** が適している¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。しかし、最も重要な問いは「どの AI プラットフォームが最も優れているか」ではなく、「自分のデータと行動の主権を誰に委ねるか」である。この問いに対する答えが、選択を決定づける。

参考文献

- 1) Wikipedia, "OpenClaw," <https://en.wikipedia.org/wiki/OpenClaw> (2026年3月閲覧)
- 2) Wikipedia, "Manus (AI agent)," [https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_\(AI_agent\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_(AI_agent)) (2026年3月閲覧)
- 3) GitHub, "openclaw/openclaw: Your own personal AI assistant," <https://github.com/openclaw/openclaw> (2026年3月閲覧)
- 4) CNBC, "Meta acquires intelligent agent firm Manus, capping year of aggressive AI moves," 2025年12月30日
- 5) TechCrunch, "Meta just bought Manus, an AI startup everyone has been talking about," 2025年12月29日
- 6) Medium (Aftab), "OpenClaw Just Beat React's 10-Year GitHub Record in 60 Days," 2026年3月
- 7) The New Stack, "OpenClaw rocks to GitHub's most-starred status, but is it safe?," 2026年3月
- 8) CrowdStrike, "What Security Teams Need to Know About OpenClaw, the AI Super Agent," 2026年
- 9) Cisco Blogs, "I Run OpenClaw at Home. That's Exactly Why We Built DefenseClaw," 2026年
- 10) Bitsight, "OpenClaw Security: Risks of Exposed AI Agents Explained," 2026年
- 11) Milvus Blog, "What Is OpenClaw? Complete Guide to the Open-Source AI Agent," 2026年
- 12) Get AI Perks, "OpenClaw vs Manus AI: Open-Source vs Cloud Agent in 2026," <https://www.getai perks.com/en/blogs/11-openclaw-vs-manus-ai>
- 13) Blink Blog, "OpenClaw vs Manus AI: Which Autonomous AI Agent Is Right for You? (2026)," <https://blink.new/blog/openclaw-vs-manus-ai-comparison-2026>
- 14) Flypixon, "OpenClaw vs Manus AI: Which AI Agent to Choose in 2026," <https://flypixon.ai/openclaw-vs-manus-ai/>
- 15) CNBC, "Meta's \$2B Manus deal pushes away some customers sad it happened," 2026年1月21日
- 16) Peter Steinberger, "OpenClaw, OpenAI and the future," <https://steipete.me/posts/2026/openclaw>
- 17) Manus 公式ドキュメント, "Plans and Pricing," <https://manus.im/docs/introduction/plans>
- 18) Get AI Perks, "Manus AI Pricing 2026: Plans, Credits & Real Costs," <https://www.getai perks.com/en/articles/manus-ai-pricing>
- 19) Eesel AI, "Manus AI pricing 2025: A deep dive into its controversial credit system," <https://www.eesel.ai/blog/manus-ai-pricing>
- 20) TECH NOISY, "Manus がデスクトップ AI エージェント「My Computer」を発表," 2026年3月17日
- 21) Trending Topics, "Zuckerberg's \$2 Billion Bet: How Manus Is Chasing OpenClaw's Shadow," 2026年
- 22) note.com (平岡憲人), "【1 極めて危険】 Manus AI の安全性調査レポート," 2025年
- 23) Hakky Handbook, "manus ai のセキュリティリスクと安全対策 | 中国サーバー利用の法的懸念を徹底解説," 2025年
- 24) Asia Times, "OpenClaw AI goes viral in China, raising cybersecurity fears," 2026年3月
- 25) ITmedia, "『OpenClaw はパーソナル AI の OS』 NVIDIA が提示する新時代のエージェント基盤," 2026年3月27日
- 26) センターエッジ, "2026年：自律型 AI エージェント『OpenClaw (オープンクロー)』とは?," https://www.centeredge.co.jp/dx_media/blog/open-claw-2026

- 27) Manus 公式ブログ (Yichao Ji), "Context Engineering for AI Agents: Lessons from Building Manus," 2025 年 7 月
- 28) GitHub (renschni), "In-depth technical investigation into the Manus AI agent," <https://gist.github.com/renschni/4fbc70b31bad8dd57f3370239dccc58f>
- 29) Medium (Akash Bangera), "Manus vs OpenClaw: The \$2 Billion Question About Your Next AI Employee," 2026 年 2 月
- 30) Goldie Agency, "Manus AI vs OpenClaw: Fast Automation Or Full Control," <https://goldie.agency/manus-ai-vs-openclaw/>
- 31) NxCode, "OpenClaw 2026: How to Uninstall, Security Risks & Complete Guide," <https://www.nxcode.io/resources/news/openclaw-complete-guide-2026>
- 32) OpenClaw Blog, "OpenClaw Creator Peter Steinberger Joins OpenAI," <https://openclaws.io/blog/openclaw-creator-joins-openai/>
- 33) GitHub, "NVIDIA/NemoClaw: Run OpenClaw more securely inside NVIDIA OpenShell," <https://github.com/NVIDIA/NemoClaw>
- 34) PCWorld, "Meta's Manus AI just added a nifty OpenClaw trick," 2026 年
- 35) exaBase コミュニティ, "OpenClaw は生成 AI の第 3 の波 企業組織が大きく変わる転換点," 2026 年 3 月 24 日